

創造的な学習で、NIE実践に広がりをも！

長野県NIE推進協議会会長
信州大学教育学部教授

渋澤 文隆



NIEの実践の幅を広げるために、次のようなことを思いついたのですが、いかがでしょうか。

最初に、「“新聞の紙面、1ページ分をまるごと皆さんのクラスに差し上げます。1カ月で原稿を作ってください”との申し出を受けました。さて、皆さんはどんな紙面を作りますか」といった場面設定を行う。そして、この課題を検討するに当たっては、まず「新聞は、どのような人達に、どのように読まれているのだろうか」「新聞は、どんな役割を果たしているのだろうか」といった問いを投げかける。一段落ついたら、次に、「それでは、新聞の読者や役割などを考慮して、次の2点を踏まえて紙面作りにチャレンジしよう」と提案し、グループごとに原案作りの作業に入る。その際、文字でびっしり埋まっている紙面、全面広告の紙面などを参考にして、みんなで作る紙面のイメージを膨らませるようにする。

- ・今、地域や社会の人々に対し、クラスのみならず最も知って欲しいこと、訴えたいことはなんだろうか
- ・理想というよりも実現可能なことで、みんなが心掛けたり取り組んだりするとよいことにはどんなことがあるだろうか。

中学生、高校生が対象ならば、さらにエスカレートさせて、次のような課題を設定し、取り組ませてもよいだろう。

◆ テーマ 「私たちが考える新聞の紙面構成」

「どんな新聞ならば配達が楽しみになるかな?」「どんな新聞ならば読んでみたいと思うかな?」、まずはこんな点から考えてみようとして投げかける。その上で、次に新聞は読まなければ何にもならないが、読者に迎合し、単におもしろければよいというのでは新聞の役割は果たせないのではないかと投げかけ、次の諸点について考えてみようとして提案し、取り組ませる。「新聞は今、どんな紙面構成になっているのだろうか、なぜそのような紙面構成になっているのだろうか」「新聞はどんな人達にどんな読まれ方をしているのだろうか」「新聞は、本来はどんな役割を果たすことが期待、要請されているのだろうか、実際はどんな役割を果たしているのだろうか」「これからの社会で新聞はどんな役割を果たせるのだろうか、新聞にどんな役割を果たして欲しいか」。

一区切りついたら、具体的に紙面構成のプラン作りに取り組ませる。なお、全部の紙面を対象にするのではなく、あるページをこのような紙面に変えるといった部分的な構成について検討させることも考えられよう。

こうした作業的で創造的な学習の場を設定すると、子どもは大いに個性を発揮し、またみんなで力を合わせて作り上げることの豊かさを体験することができるだろう。また、こうした活動を通して自然に新聞に慣れ親しみ、新聞の存在を意識し、新聞の理解者になっていくだろう。将来的には、こんな部門からなるコンクールを開催できたら、一層励みになり、子どもの意欲を喚起することができるだろう。

NIEの実践、活動の幅を広げるために、あえて長々と思いを書いた。今年度も足元をみつめ、確かな実践が蓄積された。関係者の皆様に深甚の謝意を申し上げます。